

住宅建築

a monthly journal for home builders and designers

9

September '00

no. 306

第306号 平成12年9月1日
発行所 657-2315 3-10-10
ISSN 0365-8901

《集まらば住む》と《再考》

大月敏雄・齋部功 / 谷内田章夫 / 泉幸甫 / 古暮和歌子 / 更田邦彦・十岩岡竜夫・十岩下泰三
川口通正 / 青山恭之・永田博子 / REO建築計画研究所 / 横河健 / 元倉眞琴 / 染谷正弘

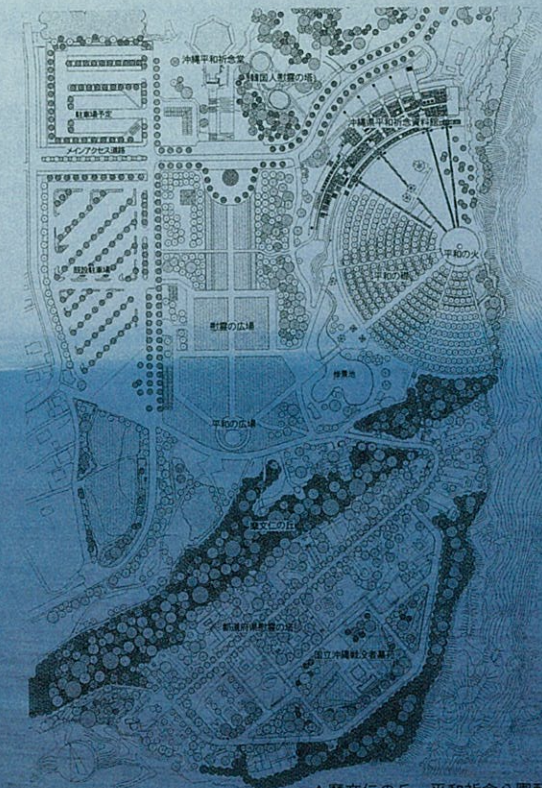
生活をあらわす器のかたち — 堀部安嗣

新しい聖域としての沖縄県・摩文仁の丘 — 平良敬一

新しい聖地としての沖縄県・摩文仁の丘

— 「平和の礎」と「平和祈念資料館」が対になって場所性を高める

文：平良敬一
写真：大野 繁



上空から見渡す「平和祈念公園」全景

摩文仁の丘は聖地

沖縄県糸満市の摩文仁の丘に、今春新しい「沖縄県平和祈念資料館」ができた。隣地には1995年にできた「平和の礎」がある。

このふたつの施設は対をなして、新しい聖地の風格を創造している。ともかくも摩文仁の丘は特別な意味をもつ場所である。

1945年の3月末、史上まれな激烈な戦火が沖縄の島々を襲った。鉄の暴風といわれる艦砲射撃と空爆は島々の山容を変え、貴重な文化財のほとんどを破壊しつくした。日本における唯一の地上戦であり、太平洋戦争で最大の戦闘が繰り広げられた。戦闘は一般住民を巻き込み凄惨を極めた。軍人より一般住民の犠牲ははるかに多かったのが沖縄戦の特徴だった。沖縄県民は、想像を絶する極限状態のなかで戦争の不条理と残酷を体験したのである。忘れてならないのは、「国内が戦場になったとき、軍隊と住民の関係がどうなるか、それをつぶさに体験したことの意味は重大である。

戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝えること、そして全世界の人々に不戦と平和への意味を呼びかけていくこと、そこにこそ沖縄県平和祈念資料館の理念はあった。

摩文仁の丘は特別な場所である。平和祈念堂があり、多くの祈念碑が立ち並び、戦跡国定公園の一角が、一般住民を巻き添えにした地上戦の悲惨な記憶と、今はきれいに整備された風景がだぶってくる。原風景は想像を絶する厳しい様相で浮上してくる。戦場の実相をえぐる証言記録が明らかにするもの、それは『沖縄の旅・アブチラガマと轟の壕』（石原富永著）が克明に伝えている。新しく建てられた沖縄県平和祈念資料館は、25年前に建てられた旧館を十倍ちかく拡張したもので、沖縄戦をテーマにした常設展示の内容も全面的に拡充されたようである。隣接する「平和の礎」が祈りと瞑想の場であり象徴性の高い雰囲気漂わせに対して、対をなす資料館は戦争の悲惨と残酷を直視して戦争と平和の問題を深く考える場として設定された。ふたつが両輪となって世界に向かって沖縄のこころと平和のメッセージを発信する拠点となることが期待されている。

「平和の礎」のデザイン・コンセプト

1945年6月23日は、第32軍牛島司令官ならびに長参謀長が割腹自決、沖縄戦における日本軍の組織的抵抗が終焉を告げたとされる日である。それから50年たった1995年に20余万人の名を刻む「平和の礎」が完成したが、それ

より2年前の1993年にデザイン・アイデアコンペが行われた。国内外から応募総数274件、その中から選ばれたのが那覇の「グループ？」（仲井間憲児・赤嶺和雄・渡久地克子・和宇慶朝健）のデザインだった。彼らのテーマは「平和の波、永遠なれ」(Ever-lasting Waves of Peace) で沖縄の波に乗せて、永遠の平和の心をこの場所から世界に向けて発信しようというものだった。水平線の見える丘の東側の断崖がロケーションの中で見事に活かされている。断崖近く、円形の「平和の広場」が設定され、その中心に「平和の火」が灯される。そしてメイン園路から「平和の広場」越しに太平洋の青い波間から昇る旭の望見が可能になる。このビスタビジョンがデザイン・コンセプトの骨子であった。刻銘板は深い樹陰の中、広場の中心から同心円状に波状に配置される。海の方に大きく開いた形状は幾何学的・抽象的な形をとりながら、かえって周辺の自然風景を疎外することなく、この地の場所性の表現に寄与していると感じられる。

行われたコンペの審査員は山本正男委員長（沖縄県立芸術大学学長）をはじめ、翁長向修・岸本一夫・城間勇吉・西村貞雄・山口洋子・高山朝光の諸氏であった。

「新沖縄県平和祈念資料館」のデザイン

旧館は1975年にこの地に建てられた。この摩文仁の丘には各県別の慰霊塔をはじめとして、健児の塔、平和祈念堂、国立戦没者沖縄墓苑等々、沖縄戦にまつわる多くの施設が集中して一帯はさながら霊域としての雰囲気醸し出している。また、旧資料館の周辺は沖縄県が管理する平和祈念公園であり、沖縄戦の記録的戦闘が修了した日として位置付けられている6月23日（慰霊の日）には毎年、沖縄県主催の慰霊祭が執り行われている。旧資料館に隣接して「平和の礎」が1995年にできたことは既に述べたが、この旧資料館は開館以来25年、老朽化も著しく増改築もできないほどになった。また、展示や企画も思うにまかせず限界が感じられ、近年、平和資料館に対する要望も増大し、かつ多様化していることから、新たな資料館設置の必要性が確認される。旧資料館は沖縄戦中心であったが、沖縄戦、米国統治時代、さらに日本復帰後も基地との共存による構造的暴力など沖縄の歴史的体験と現実を踏まえ、次代への教訓を継承すると共に、21世紀の平和を何よりも大切に「沖縄のこころ」を世界に発信し、平和の発信地沖縄のシンボルとする方針が変わったのである。



写真：平良敬一

1996年、「新平和祈念資料館」の設計プロポーザル・エスキス競技が行われた。審査員は清家清（元東京芸術大学教授）をはじめ、鈴木雅夫・福島俊介・小倉暢之・備瀬ヒロ子・山城佑啓・照屋寛孝の諸氏。

最優秀賞に選ばれた作品は隣接した「平和の礎」に寄り添う形で、「平和の火」を中心にした同心円状に配置され、屋根には赤瓦を載せ、建物の中庭に面して広い回廊が両端のように連なり、沖縄伝統の集落を思わせる。この案の応募者名はチームドリーム（代表者 福村俊治）。

福村俊治によれば、「沖縄が長年培ってきた伝統文化を継承しながら、沖縄の将来の夢や平和を希求する心を建物に表現することが設計のポイントであろう」と協同した仲間たちと話し合った、という。つまり、沖縄戦の終焉の土地であり、国定戦跡公園である景勝地であって、しかも敷地は「平和の礎」のすぐ横に設定されたこの建物の表現にもはや設計士個人による建築的な自己主張は許されないと考えたという。

「平和の礎」への配慮と共に沖縄の伝統的文化を受け継ぐ新しい沖縄建築を目指すのである。「平和の火」を中心とする同心円状に建物を配置することによって「平和の礎」との一体感を強める。屋根をセットバックさせながら、小さな連なる赤瓦屋根を載せる。民家の集落を思わせる効果を狙う。「平和の礎」側前面に、「礎」の休憩場所ともなるように、これも沖縄の民家によくみられる雨端空間を取り入れながら、表現は全体として控えめに、しかし細やかな建築表現に心がける。そして周辺の景観に溶け込ませることが最善と考えたという。自己主張を抑制し、場所性を考慮し、その土地伝統を作品の中に取り入れる、つまり他者との共存を作品自体に表現することは、その土地に根付くためにとるべき方法であり、モダニズムの純粋にこだわる必要はない。この場所にふさわしい象徴ともなるよう風景創造に貢献しようものとし



140頁写真：新平和資料館の展示室から「平和の火」を中心とした同心円状に配された「平和の礎」と各県慰霊塔が集まる丘を越えて太平洋の水平線が浮び上るのを望見する
上写真：新平和折念資料館の屋根を展望室から見下ろす
下写真：旧資料館から「平和の礎」越しに新平和折念資料館の南側全景を望む





ての敷地計画と建築表現は、新しい世紀への、そして新しい「造景」の時代への道筋を示すものではないか、そんな感慨を「平和の礎」と「平和祈念資料館」が対となって示すものに覚えたことを記しておく。

ところで沖縄サミットは何だったのか。サミットは、開催地の問題を話し合う場ではないから、在日米軍基地の75%が集中して、それによる不安全に人々が日常的にさらされていること、どう正当化しようと不条理であり、れっきとした主権国家の国民でありながら自国政府に十分に保護されるどころか、しばしば見捨てられるに等しいことも多い。

サミット前日の6月20日、沖縄の人々は嘉手納軍基地を取り囲む2万7千人の「人間の鎖」を実行した。前沖縄県知事太田昌秀さんもその中にいたと現地の新聞は伝えた。女性議員10人を擁して乗り込んできた社民党の鎖もあったという。

21日、アメリカのクリントン大統領は那覇空港に着くなり、ヘリコプターに乗り継いで摩文仁海岸の「平和の礎」に直行して演説している。沖縄戦で島民の3分の1が命を落とし、9割が家を失った。「平和の礎」はひとつの戦争でなく、あらゆる戦争への慰霊碑だ。

沖縄への配慮をにじませた演説であった。

しかし、基地縮小への具体的策はなにも語られなかった。県民の反応は複雑だったようだ。「沖縄の基地の重要性を確認し、普天間飛行場の移設を進めよう」というものだった。

祭りは祭り、基地は基地。サミット歓迎の一方で反基地を祈る二つの顔が沖縄だというのが現実。サミット期間に合わせて、名護市の辺野古海岸ではニライカナイ祭りという催しが開かれた。「すべての武器を楽器に」という沖縄の歌手嘉納昌吉の呼びかけで、日本の歌手、世界の少数民族が次々と自分たちの歌と踊りを披露した。

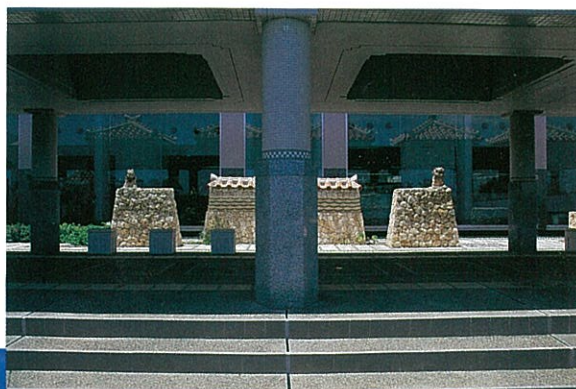
沖縄県民はサミットの客人たちを丁重にもてなし、沖縄の伝統の芸能も楽しませた。そしてお祭り騒ぎが過ぎてみると、その陰で見えなかったものが見えてくる。そしてお祭り会場の問題点も見えるべきであろう。それは私たち自身の問題であるはずだから。

最後に脱線してしまっただが、しかしサミットが沖縄で開催されたことと基地問題、そして「平和の礎」と「平和祈念資料館」が、対になって創造している新しい沖縄の聖地の行方は深いところをつながる切実な問題なのである。

たいら・けいいち／編集者



▲ホール2階からガラス越しに中庭と柱廊の赤瓦屋根、そして「平和の礎」を望む

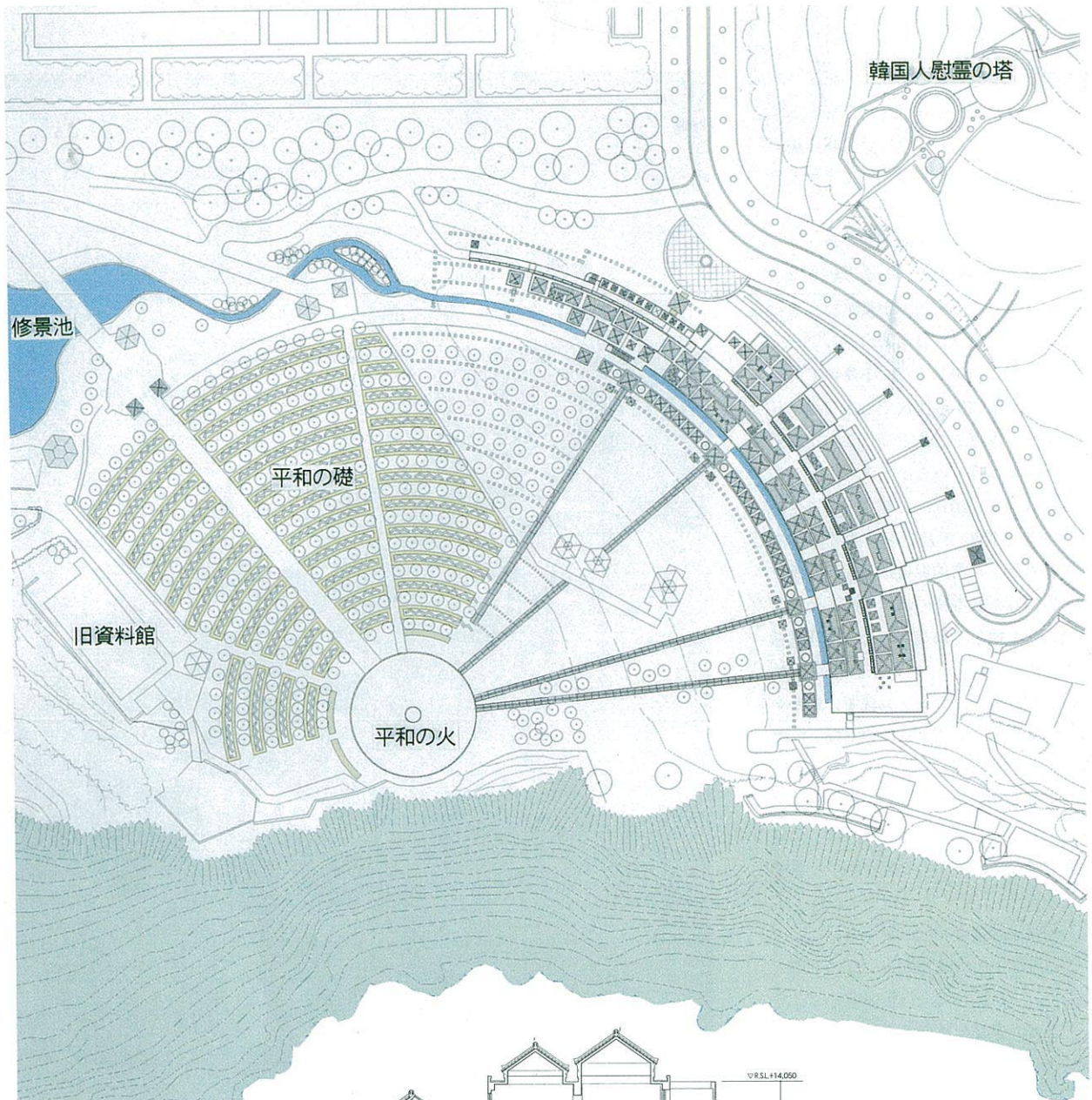


下写真2点=平良敬一



▲柱廊の南面から中庭のシーサー(魔除けの獅子像)を見る

◀柱廊とのあいだの中庭



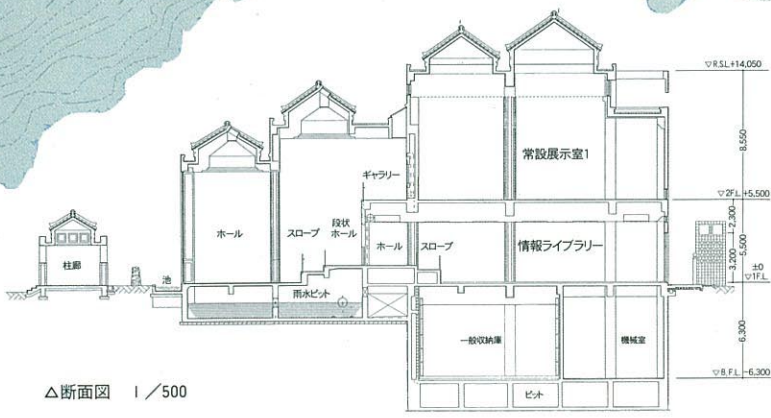
韓国慰霊の塔

修景池

平和の礎

旧資料館

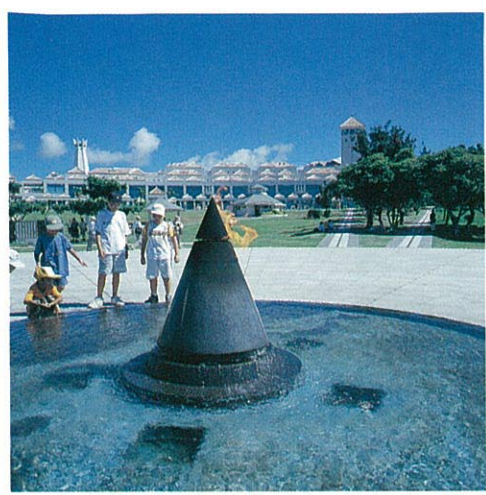
平和の火



△平和の礎・平和祈念資料館配置図

- 【資料】
- 建物名—平和の礎（いしじ）
 - 所在—沖縄県糸満市摩文仁
平和祈念公園内
 - 発注者—沖縄県
 - デザイングループ（代表・仲井間憲児）
共同制作者/赤嶺和雄・渡久地克子
和宇慶朝健
 - 実施設計—ふくたけ設計事務所
 - 施工—刻銘碑1工区/稲福建設
刻銘碑2工区/屋部土建
外構/太名嘉組
関連施設/中村建設
電気設備/西崎興業
機械設備/田端設備工業
浄化槽/興南施設管理
植栽/西原農園
 - 竣工—1995年6月
 - 規模
 - 敷地面積—17,900㎡
 - 刻銘碑/5つ折りタイプ68基
3つ折りタイプ46基
 - 園路・回遊路/2,900.9㎡
 - 平和の広場/1,319.6㎡
 - 便所/58.9㎡×2棟
 - 休憩所/26.2㎡×2棟
 - 無人案内所/26.2㎡×3棟
 - 植栽—モモタマナ243本、コウライ芝
/13,600㎡

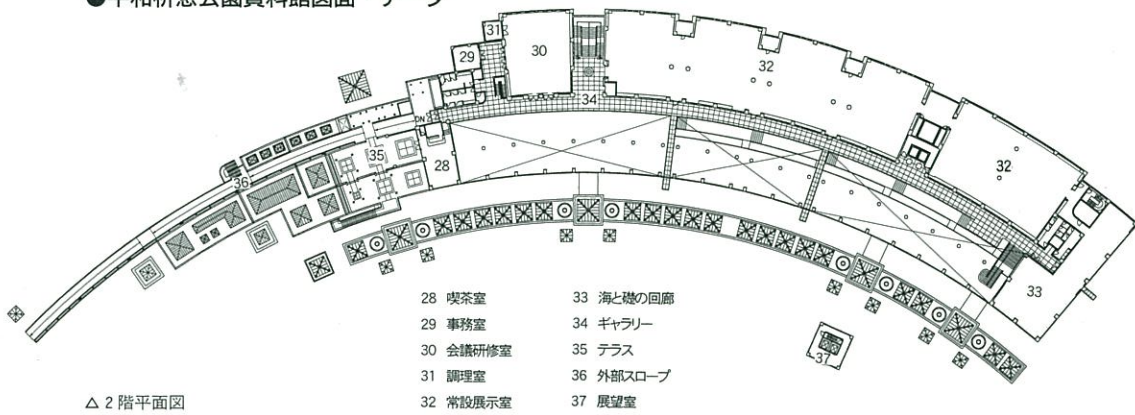
△断面図 1/500



▲「平和の礎」の円形広場の中央に「平和の火」が灯る
144 JUTAKU-KENCHIKU 200009

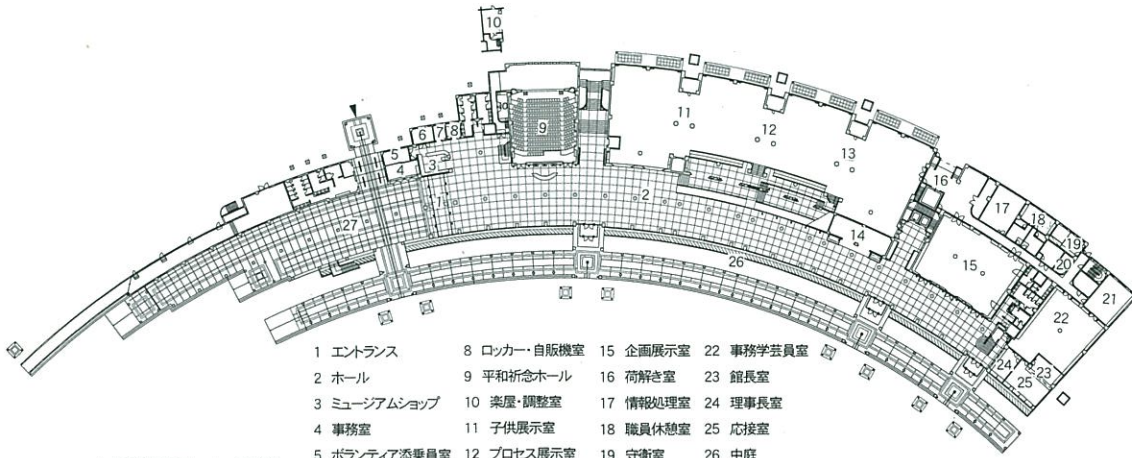
▲「平和の礎」の刻銘板に折りをささげる人々

●平和祈念公園資料館図面・データ



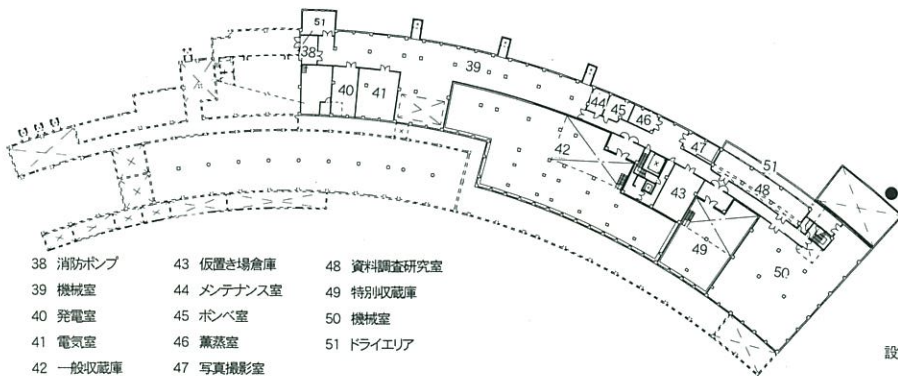
△2階平面図

- | | |
|----------|-----------|
| 28 喫茶室 | 33 海と磯の回廊 |
| 29 事務室 | 34 ギャラリー |
| 30 会議研修室 | 35 テラス |
| 31 調理室 | 36 外部スロープ |
| 32 常設展示室 | 37 展望室 |



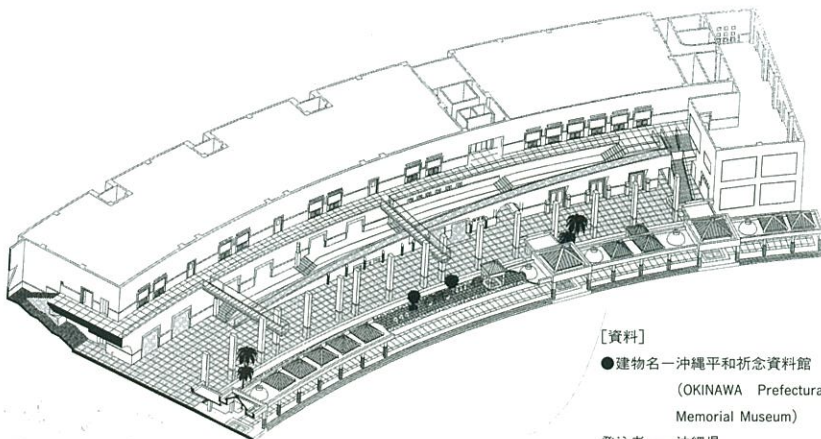
△1階平面図 1/1500

- | | | | |
|--------------|-------------|----------|-----------|
| 1 エントランス | 8 ロッカー・自販機室 | 15 企画展示室 | 22 事務学芸員室 |
| 2 ホール | 9 平和祈念ホール | 16 荷置き室 | 23 館長室 |
| 3 ミュージアムショップ | 10 楽屋・調整室 | 17 情報処理室 | 24 理事長室 |
| 4 事務室 | 11 子供展示室 | 18 職員休憩室 | 25 応接室 |
| 5 ボランティア添乗員室 | 12 プロセス展示室 | 19 守衛室 | 26 中庭 |
| 6 授乳・救護室 | 13 情報ライブラリー | 20 給湯室 | 27 ピロティ |
| 7 TELルーム | 14 アルコブ | 21 事務会議室 | |



△地階平面図

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 38 消防ポンプ | 43 仮置き場倉庫 | 48 資料調査研究室 |
| 39 機械室 | 44 メンテナンス室 | 49 特別収蔵庫 |
| 40 発電室 | 45 ボンベ室 | 50 機械室 |
| 41 電気室 | 46 薫蒸室 | 51 ドライエリア |
| 42 一般収蔵庫 | 47 写真撮影室 | |



△アイソメ

[資料]

●建物名—沖縄平和祈念資料館
(OKINAWA Prefectural Peace Memorial Museum)
発注者—沖縄県
所在—沖縄県糸満市摩文仁614-1

平和祈念公園内

用途—資料館

●設計・監理—team DREAM

代表：福村俊治
作真建築設計事務所／比嘉憲信、田上政尚
平良進建築研究室／平良 進
バス建築研究室／塩真孝彰
二條設計／末吉淳一
GROUP 24／伊盛 勝
JOU設計／宮里乗彦

LPA／面出 薫，稻葉 裕
Cai設備／宮良洋三，楚南幸博，高良 聡，宮城竜二，大城盛之，大城清信
金箱構造設計事務所／金箱温春，佐久間拓

HILOデザイン研究所／小畑広永，小畑侑子，小畑真帆，山賀貞治，小澤美佐雄，牧野友美，諸岡由美，若鍋善人，渡辺太郎，高明 愛，森 英美，金澤幸江，片野徹也，山本直視，西野敬司，松木信三
海那計画／知花一夫
トロピカルプランニング／佐々木慶二

トロピカルグリーン設計／大竹岩男，松田美和
園田造園設計事務所／園田 穰
沖縄緑化研究所／小島 裕

空間計画 VOYAGER／福村俊治，河野俊弘，前城功，美濃祐央，新垣 直，西谷陽二，佐藤亘
team DREAM／福村俊治，友寄隆仁，比嘉裕隆，仲宗根司和，植坂 慈，川合 潤，矢口卓行，田中俊郎，川武聖子，長谷川梨美，新垣 泰，下地洋平，前田栄明，本村伸弥，川口悦子，大城美香，新垣健一，山下てるみ，具志堅英明，岡原哲也，古波津えりこ，高木大輔，樺田晋一，国友慈，仲本昌宏，小谷みゆき，當眞由依子，周 建伸，大城幸恵，大城直子，渡口美雪，中村龍次，久志直輝，具志堅裕一，IGNACIO R. GALINDEZ, Jr.

●施工—1 工区／大木建設，田端建設，玉城組
2 工区／国場組，金城キク開発，国興建設
3 工区／大城組，根路銘工務店，丸善建設

設備工事—電気 1 工区／那覇電工，南光開発，久米電装
電気 2 工区／金城電気工事，太平洋電気工事，新星電機工事
空調 1 工区／大宮設備，万代設備，昭和工事
空調 2 工区／琉球冷機，琉金商事，イチゴ

衛生／国場組，光電気工事

その他—松下電器産業，サンケン・エンジニアリング，松村電機製作所，沖縄日立，海那工業

竣工—1999年6月
構造規模—RC造，一部PC 地下1階地上2階建+展望階

●面積
敷地面積—12,808.4㎡
建築面積—6,330.2㎡
延床面積—10,180.0㎡ (地階/2,419.8㎡
1階/4,536.7㎡ 2階/3,130.8㎡
展望階/92.7㎡)
建蔽率—49.4% (70%)
容積率—79.5% (400%)
地域地区—市街化調整区域，防火指定なし